

第3回高P連活動事例発表会「意見交換会」のまとめ

I. 単Pの活動について

- ・PTAの活動はそんなに多くないが、競歩大会等の学校行事には保護者の参加は多い。
- ・協力しない保護者もいるが、参加すると理解が得られることが多い。
- ・自由に参加できるPTA活動の在り方について模索している。
- ・保護者のネットワークがあれば協力者はいるのではないかと、コミュニケーションが必要。
- ・行事の際に保護者が参加してくれると、生徒の様子や学校の理解が深まる。
- ・学校・家庭・普段の生活を考えるとPTAは必要である。
- ・1年生の保護者の協力が意外と多かった。
- ・学校側と保護者の距離が開いてしまったように感じることもある。
- ・PTA会費で学校運営が成り立っているのに、学校とPTAとの協力関係が薄い。
- ・PTA会計における収入の減に対応するため学校名が入ったマフラータオルの販売を行った。支出についての精査の必要性も感じている。
- ・伝統校においては、同窓会やOBによる支援が大きいので、PTA活動もその影響下にある。
- ・小中学校のときに比べてPTAの活動が少ない。また、学校からの情報発信が少なく、学校で何をやっているのか見え難いことが多い。
- ・行事ごとで役員も含めた保護者で反省会(食事会)を行っているが、食事会をやったほうが求心力、結束力があがる。
- ・学校にお金がないからバザーなどでお金を集めなければならない。
- ・関東大会は1年生役員、全国大会は2年生役員が参加することで、PTA活動の参考にしている。
- ・成人年齢が変わることへの対応など、PTA主催の研修会を行っている。
- ・1, 2年生の役員さんの活動参加が必要。
- ・PTA会費の使用状況を理解してもらえれば、役員以外の方の活動参加はなくてもいいのではないだろうか。いろいろやろうとしてもそれが負担で離れられても困る。
- ・PTAの活動を理解してもらって、できる人は参加してもらえれば良い。
- ・模擬試験の運営などはPTAがなければ成り立たないのでPTAは必要だと思う
- ・今回の事前アンケートは役員へのアンケートなので一般保護者の意見はどうだろうか？
- ・PTA新聞でのPTA活動の周知ができていないか不安。
- ・各校の学園祭等において、PTA役員と保護者有志による模擬店やバザーなどを行い、生徒と教員との交流や活動資金の獲得につなげている。
- ・商業系や農業系の学科では、生徒が商品開発や販売を行う実習や行事などに保護者も協力し、学校のPRに努めている。
- ・能登半島の災害支援として、物産品販売による義援金の活動を行った。
- ・強歩大会等の大きな体育行事の実施には、保護者の協力が不可欠である。
- ・継続可能なPTA活動とするため、除草作業などの行事の見直しや活動内容の縮小を図っている。
- ・PTA会費や進路や部活動の後援会費など、小中学校に比べて保護者の負担が大きいと感じている。家庭の経済状況によっては、支払いが困難ではないかと思う。
- ・PTAでは何をしたらいいのかわからない。

- ・PTA職員について、各学校で違いがあるということが分かった。
- ・今後、生徒数が減少していく中で、PTAがこのままでよいのか不安である。
- ・PTA職員雇用問題について、各学校事情はそれぞれである。でもそこで、公立高校でありながら運営方法が違うのはおかしい。
- ・学校独自に雇用しているPTA職員の給与問題はそれぞれの学校で異なるが、教職員は頼りにしてしまっているのが現状であり、いなくなってしまうと負担が増えてしまう。
- ・各個人が払う授業料・PTA会費等の内情を知らない保護者が多い、グレーゾーンと言われるのは正確な情報を知ろうともしない体制があるからである。
- ・人口が減少する中、PTAが存続するためには任意団体として軽視される立ち位置が良くない。
- ・選出後の組織作りも重要だが、学校は円滑な組織作りまでは、関わってくれない。
- ・単Pが自主的に親睦を深めるバスツアーを行った。良い組織ができ活動に反映できた。
- ・単Pによって、男性と女性の割合が違う。多勢の意見を優遇する傾向がある。役員間でも公平に意見が出せる工夫が欲しい。
- ・会議の参加率を上げ、意義ある時間にするためにも、Zoomなどを活用する。また、事前に資料をメール配信するなど、効率が上がる工夫がほしい。

[PTA役員]

- ・PTA役員決めについて苦戦しているが、OB等が中心が多い。
- ・PTA役員は同窓生でほとんど決まる。
- ・複数年のPTA役員の人選では、受けていただけない場合がある。
- ・入学式当日にPTA役員決めを行っている。
- ・入学式時の役員決めは厳しい。保護者のネットワークで役員決めが行われることが望ましい。
- ・入学式後にPTA役員決めを行っているが、立候補者は多い反面、会長・副会長が決めるのが難しい。
- ・生徒数が極端に減少し、学校規模が小さくなったことで、PTAの活動も制限され、役員の選出も困難になっている。
- ・学校、知り合いの繋がりでの役員選出になるので特に問題にはなっていない。
- ・できる人でやれるのがいいのではないかな。
- ・クラスでの選出や地区からの選出など各校によって選出方法は様々だが、いずれも役員の確保には苦労している。
- ・PTAの役員決めで仕方が無く受けてしまったのが本音。
- ・交流のある顔なじみの保護者が役員を選考しているので、その後の活動も協力しあえる。
- ・学校による選考は、公平な基準を設けて欲しい。選考アンケートの名簿の1番は印を付け易いので工夫が欲しい。
- ・役員は1家庭1名で担うものと勘違いが多い。募集の際には、1家庭、複数で分担して参加などの周知をして欲しい。

[コミュニティスクール]

- ・コミュニティスクールの運営を始めたので保護者ネットワークが出来ている。学校の活動情報を発信することにより学校とPTAの連携が上手くいっている。
- ・学校に対するPTAの係りがもっと多くても良いのではないかな。この点に関しては取組が進められているコミュニティスクールの運営に期待したい。

Ⅱ. 高P連の活動について

- ・高P連は必要なのかは学校からは何とも言えない、関東大会、全国大会の参加は非常に勉強になっている。
- ・関東大会や全国大会への参加は勉強になり、横のつながりが広がるが、得た情報の還元方法を検討する必要がある。
- ・関東大会等の開催事に協力体制が構築できるかどうか不安。
- ・関東大会での事例発表会は、単Pの負担にならないか？
- ・互助会や賠償保険だけではメリットが少ない。
- ・高P連役員が参加する会合のメリットを明確化できないか。
- ・高P連として各学校の問題点等を共有し、事務局等で県教育委員会・教育長へアクションを図り、会員へ戻せると良い。
- ・他校のPTAとコミュニケーションが取れることは非常に有意義であり、そのためにも必要な組織である。
- ・全国Pの取組が単Pまで降りてきていないことが残念である。
- ・高P連を廃止することはあり得ない。問題があれば取り組み方を改善することが大事である。
- ・高P連事務局にPTAからの意見を日常的に収集できる『目安箱』のようなものを設置したらどうか。
- ・今回の事例発表会への参加が少ない。
- ・1年生、2年生の役員が中心の事例発表会の方が良い、3年生役員がいいと思ったことを単Pに落とし込める時間がない。
- ・単P役員以外の保護者に県P連とは何か理解できないと思う。
- ・関東大会や全国大会へ行って話を聞いてもそれを単Pに落としこむには時間がたりない。
- ・県P役員が3年生役員でなくても良いのではないかな。
- ・事例発表会をこの時期に行っても落とし込めない、3年生の会長が聞いても時間がない。
- ・県P連による単Pへの指導などが必要。
- ・単P会長が県P会長を兼務するのは難しい。
- ・県P連へは1, 2年生の役員が出向したほうが良いのではないかな、それで3年生になった時に単Pへ落とし込むほうが良いのではないかな。
- ・県P連で得たものを単Pに落とし込む時間がない。
- ・安全互助会や保険などの運営のため、県組織は必要だと思う。
- ・単年で変わるPTA役員の構成を考えると、事務局は必要である。
- ・全国大会や関東大会に参加した成果を還元するためには、各校における研修会やPTA便り等での保護者への周知が大切である。
- ・学校の施設設備の改善など、県・市への働きかけの強化を図ってほしい。
- ・学校だけの関りだけなら良いが、高P連の意味が分からない。
- ・PTA職員の雇用問題などを高P連で話し合い、保護者と教員同士が会話を通じて、陳情することも必要である。